

**1**(1)  $f(x) = x^3 - 6x^2 - 15x + 30$  から

$$\begin{aligned}f'(x) &= 3x^2 - 12x - 15 \\&= 3(x+1)(x-5)\end{aligned}$$

よって、 $f(x)$  の増減は次表の通り。

$x$	…	-1	…	5	…
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗		↘		↗

したがって、 $f(x)$  は  $x = -1$  のとき極大、 $x = 5$  のとき極小となり

極大値： $f(-1) = -1 - 6 + 15 + 30 = \mathbf{38}$

極小値： $f(5) = 125 - 150 - 75 + 30 = \mathbf{-70}$

(2) グラフ  $C$  上の点  $(t, t^3 - 6t^2 - 15t + 30)$  における接線の式は

$$\begin{aligned}y - (t^3 - 6t^2 - 15t + 30) &= (3t^2 - 12t - 15)(x - t) \\∴ y &= (3t^2 - 12t - 15)x - 2t^3 + 6t^2 + 30 \quad \cdots (*)\end{aligned}$$

この接線が点  $(-3, -6)$  を通るとすると

$$\begin{aligned}-6 &= (3t^2 - 12t - 15) \cdot (-3) - 2t^3 + 6t^2 + 30 \\∴ 2t^3 + 3t^2 - 36t - 81 &= 0 \\∴ (t+3)^2(2t-9) &= 0 \\∴ t = -3, \frac{9}{2} &\end{aligned}$$

これらを (\*) に代入して

$$y = 48x + 138, \quad y = -\frac{33}{4}x - \frac{123}{4}$$

**2**

(1) 条件

$$2 \leq a < b < c \leq 6 \quad \cdots \cdots (*)$$

を満たす整数  $a, b$  に対する  $a+b$  の値は次表の通り。

$\begin{array}{c} b \\ \diagup \\ a \end{array}$	3	4	5
2	5	6	7
3		7	8
4			9

したがって、(\*) と不等式  $a+b > c$  をともに満たす整数  $a, b, c$  の組  $(a, b, c)$  は

$$(2, 3, 4), (2, 4, 5), (2, 5, 6), (3, 4, 5), \\ (3, 4, 6), (3, 5, 6), (4, 5, 6)$$

(2) 条件 (\*) を満たす整数  $a, b$  に対する  $a^2 + b^2$  の値は次表の通り。

$\begin{array}{c} b \\ \diagup \\ a \end{array}$	3	4	5
2	13	20	29
3		25	34
4			41

さらに

$$4^2 = 16, \quad 5^2 = 25, \quad 6^2 = 36$$

に注意すると、(\*) と不等式  $a^2 + b^2 \geq c^2$  をともに満たす整数  $a, b, c$  の組  $(a, b, c)$  は

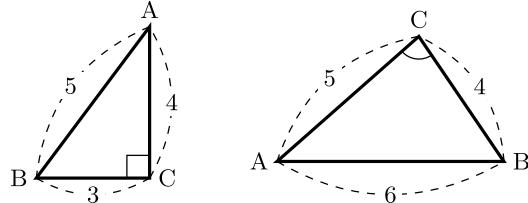
$$(3, 4, 5), (4, 5, 6)$$

(3)  $(a, b, c) = (3, 4, 5)$  の場合、 $\triangle ABC$  は辺 AB を斜辺とする直角三角形、つまり  $\angle ACB = 90^\circ$  なので

$$\cos \angle ACB = \cos 90^\circ = 0$$

 $(a, b, c) = (4, 5, 6)$  の場合、余弦定理より

$$\cos \angle ACB = \frac{4^2 + 5^2 - 6^2}{2 \cdot 4 \cdot 5} = \frac{1}{8}$$



## 3

(1)  $n = 1, 2, 3, \dots$  において

$$(n+1)a_{n+2} - (2n+3)a_{n+1} + (n+2)a_n = 0$$

は次のように変形できる。

$$\begin{aligned}(n+1)a_{n+2} - \{(n+1) + (n+2)\}a_{n+1} \\ + (n+2)a_n = 0 \\ \therefore (n+1)a_{n+2} - (n+1)a_{n+1} \\ = (n+2)a_{n+1} - (n+2)a_n \\ \therefore (n+1)(a_{n+2} - a_{n+1}) = (n+2)(a_{n+1} - a_n)\end{aligned}$$

したがって、 $b_n = a_{n+1} - a_n$  とおくと

$$(n+1)b_{n+1} = (n+2)b_n \quad \therefore b_{n+1} = \frac{n+2}{n+1}b_n$$

が成り立つ。 ■

(2) (1) の結果を繰り返し適用することで

$$\begin{aligned}b_n &= \frac{n+1}{n}b_{n-1} \\ &= \frac{n+1}{n} \cdot \frac{n}{n-1}b_{n-2} \\ &= \frac{n+1}{n} \cdot \frac{n}{n-1} \cdot \frac{n-1}{n-2}b_{n-3} \\ &\vdots \\ &= \frac{n+1}{n} \cdot \frac{n}{n-1} \cdot \frac{n-1}{n-2} \cdots \frac{4}{3} \cdot \frac{3}{2}b_1 \\ &= \frac{n+1}{2}b_1 \quad (n=2, 3, 4, \dots)\end{aligned}$$

ここで、 $b_1 = a_2 - a_1 = 2$  であるから

$$b_n = n+1 \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

よって、数列  $\{a_n\}$  の階差数列  $\{b_n\}$  の一般項が得られたから、 $n=2, 3, 4, \dots$  において

$$\begin{aligned}a_n &= a_1 + \sum_{k=1}^{n-1} (k+1) \\ &= 1 + 2 + 3 + \cdots + n \\ &= \frac{1}{2}n(n+1)\end{aligned}$$

これは、 $a_1 = 1$  にも適するので

$$a_n = \frac{1}{2}n(n+1) \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

## 別解

(1) の結果から

$$\frac{b_{n+1}}{n+2} = \frac{b_n}{n+1}$$

とできるので、数列  $\left\{ \frac{b_n}{n+1} \right\}$  は定数列である。よって

$$\frac{b_n}{n+1} = \frac{b_1}{2} = 1 \quad \therefore b_n = n+1$$

さらに、 $b_n = a_{n+1} - a_n$  から

$$\begin{aligned}a_{n+1} - a_n &= n+1 \\ &= \frac{1}{2}\{(n+1)(n+2) - n(n+1)\} \\ &= \frac{1}{2}(n+1)(n+2) - \frac{1}{2}n(n+1)\end{aligned}$$

とできるので

$$a_{n+1} - \frac{1}{2}(n+1)(n+2) = a_n - \frac{1}{2}n(n+1)$$

したがって、数列  $\left\{ a_n - \frac{1}{2}n(n+1) \right\}$  も定数列である。ゆえに

$$\begin{aligned}a_n - \frac{1}{2}n(n+1) &= a_1 - \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 2 = 0 \\ \therefore a_n &= \frac{1}{2}n(n+1)\end{aligned}$$

(3) (2) の結果から

$$\begin{aligned}\sum_{n=1}^{225} \frac{1}{a_n} &= \sum_{n=1}^{225} \frac{2}{n(n+1)} \\ &= 2 \sum_{n=1}^{225} \left( \frac{1}{n} - \frac{1}{n+1} \right) \\ &= 2 \left( 1 - \frac{1}{226} \right) \\ &= \frac{225}{113}\end{aligned}$$

**4**実数  $x$ , 整数  $n$  に対して

$$f(nx) = \{f(x)\}^n \quad \dots \dots (*)$$

が成り立つ。

(1)  $(*)$  に  $x = 1$  を代入して,  $f(1) = 2$  に注意すると

$$f(n) = \{f(1)\}^n = 2^n$$

となる。数列  $\{2^n\}$  は増加する等比数列であり

$$2^5 = 32, \quad 2^6 = 64, \quad 2^7 = 128, \quad \dots$$

なので,  $f(n) \leq 100$  となるような最大の整数  $n$  は

$$n = 6$$

(2) 任意の実数  $x$  は  $x = 2y$  とおけて,  $(*)$  より

$$f(x) = f(2y) = \{f(y)\}^2$$

とできる。

題意より,  $f(y)$  は 0 でない実数だから

$$\{f(y)\}^2 > 0$$

が成り立つ。したがって, すべての実数  $x$  に対して

$$f(x) > 0$$

が成り立つ。 ■

(3)  $(*)$  に  $x = 0.25$ ,  $n = 4$  を代入して

$$\begin{aligned} f(4 \times 0.25) &= \{f(0.25)\}^4 \\ \therefore \{f(0.25)\}^4 &= f(1) = 2 \end{aligned}$$

ここで, (2) の結果により  $f(0.25) > 0$  なので

$$f(0.25) = 2^{\frac{1}{4}}$$

(4)  $a$  が有理数のとき, 互いに素である整数  $p, q$  を用いて

$$a = \frac{p}{q}$$

とおける。

 $(*)$  に  $x = a = \frac{p}{q}$ ,  $n = q$  を代入して

$$\begin{aligned} f\left(q \times \frac{p}{q}\right) &= \{f(a)\}^q \\ \therefore \{f(a)\}^q &= f(p) \end{aligned}$$

ここで, (1) より, 整数  $p$  に対して

$$f(p) = 2^p$$

であるから

$$\{f(a)\}^q = 2^p$$

さらに,  $f(a) > 0$  なので

$$f(a) = 2^{\frac{p}{q}} = 2^a$$